

いま、なぜ、シンポジウム 琉球共和社会憲法か

1981年に川満信さん一によって起草された「琉球共和社会憲法C私案」が、中国語圏の雑誌で特集が組まれ、韓国でも論集が出版されるなど、アジアの視点でにわかに注目されはじめている。

『琉球共和社会憲法の潜勢力—群島・アジア・越境の思想』（川満信一・仲里効共編、未来社）は、琉球内外の12名の論客がその思想資源をあらためて問い直す緊迫の問題提起の書となっている。

東アジアの政治地図がミリタリーグリーンに塗り替えられようとするいま、国家とは、主権とは、自立・独立とはなにかに踏み込んだ本書の刊行を機に、開催される緊急シンポジウム！！

日時：2014年7月12日（土）午後2時～6時

場所：“とまりん”地下研修場（泊港ビル正面口地下）

資料代：500円

【第一部】発言1

大田昌秀（元県知事・大田国際平和研究所理事長）

仲宗根勇（琉球共和国憲法F私案起草者）

三木健（琉球新報元編集局長）

長元朝浩（沖縄タイムス元論説委員長）

【第二部】発言2

大田静男（八重山郷土史家）

高良勉（詩人）

山城博治（沖縄平和運動センター議長）

川満信一（「カオスの貌」主宰）

連絡先：090-4470-7156（仲里）

琉球共和 社会憲法 の潜勢力

川満信一
仲里効✦編

群島・
アジア・
越境の
思想

いまこそ考える、絶対平和
の群島——共和社会構想

1981年に発表された川満信一「琉球共和社会憲法C私案」は、幻想と裏切りに終わった沖縄の「本土復帰」後十年の歴史と実態を踏まえて発想された、ユートピア精神にあふれる憲法案である。昨今の改憲案にみられる危険な方向性について強烈なアンチを突きつける。国家とは、主権とは、自立とは、そして戦争の放棄とは——

琉球内外12人の論客がその思想資源の現代的性と可能性をあらためて問い直す緊迫の問題提起！